

【全体概要】

- 本県では、7月下旬～お盆前の需要に対応できるナシは少ない。また、晩生の「新高」では収穫期の高温により果肉障害が発生し品質が低下している。
- 極早生の「はつまる」「香麗」、晩生の「甘太」などの優良品種を導入し、極早生～晩生までの商品性の高い品種構成を確立し、生産振興を図る。
- 作業姿勢の改善と軽労化、早期成園化が図れる低樹高栽培、初期費用を抑制する低コスト果樹棚の実証と普及に取り組み、新規栽培者を確保する。

新品種・新技術等の概要

○極早生品種

「はつまる」: 農研機構の育成品種。「幸水」より20日程度早く収穫できる。

「香麗」: 神奈川県で育成品種。「幸水」より2週間程度早く収穫できる。本県で13aを栽培。

○晩生品種

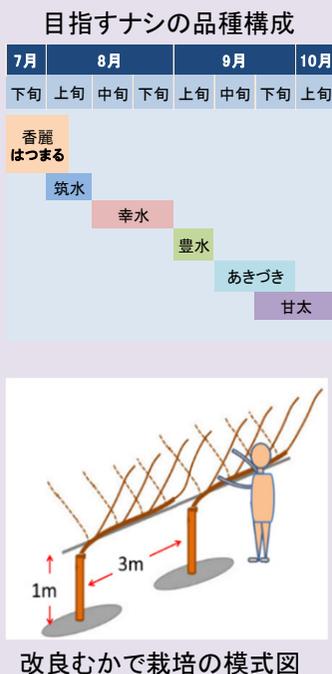
「甘太」: 農研機構の開発品種。果肉は「幸水」並みに柔らかく肉質は良好、食味も濃厚で、「新高」に代わる品種。本県で12aを栽培。

○低樹高(改良むかで)栽培による早期成園化

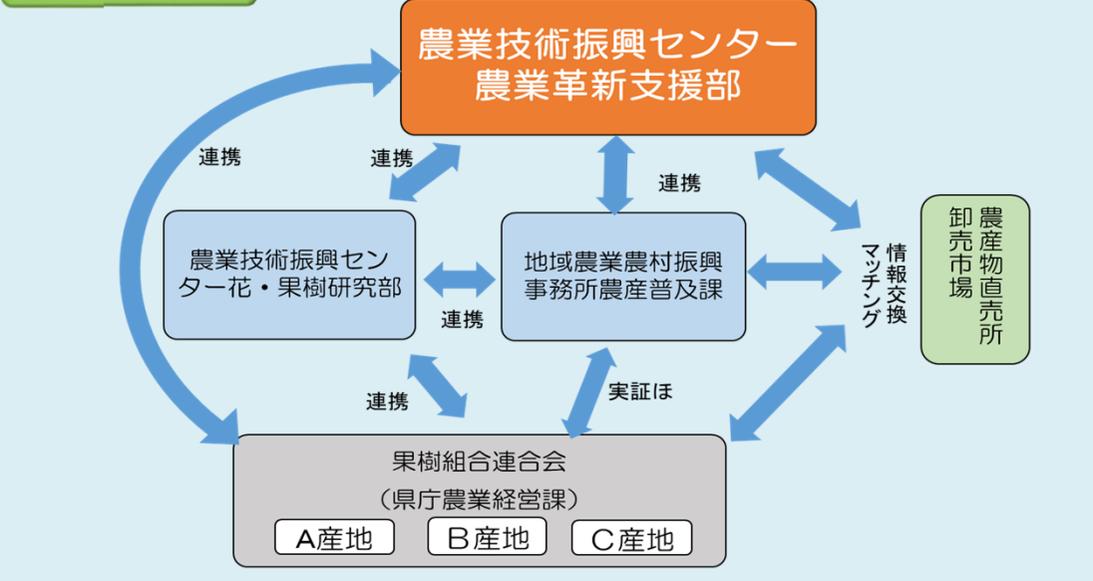
1年間育成した大苗を10a当たり100本程度植栽する。植栽して2年目から収穫でき、3年目には2t/10a程度の収穫ができる。

○低コスト果樹棚の導入

直管パイプを加工して低樹高栽培用の果樹棚を作成し、初期費用を抑制する。



実施体制図



実績と今後の展開

- ・ 極早生品種の「香麗」「甘ひびき」、晩生品種の「甘太」の栽培面積は、それぞれ令和2年から3年に19.4aから64a、12.7aから15.7a、17.8aから42.3aとなり、増えてきている。
 - ・ 低樹高(改良むかで)栽培の取り組み面積は、令和2年から3年に69.6aから106.2aとなり、増えてきている。
 - ・ 今回実証した果樹棚の部材費は、低コスト(約104万円/10a)で導入でき、低樹高(改良むかで)栽培に活用できることが確認できた。
 - ・ 近江八幡市において新規就農者8人で津田干拓地果樹生産組合が設立され、新品種・新技術を活用した新規産地づくりに取り組んでいる。
- <今後の対応>
- ・ 今回選定した新品種・新技術の普及を図り、収益性の高い産地づくりと新規栽培者の確保に取り組む。

主な取組内容

- ・ 極早生品種「はつまる」については、果実重が劣ったため、「甘ひびき」に替え、極早生品種として「香麗」「甘ひびき」、晩生品種として「甘太」の品種特性や収穫時期、果実品質を調査する実証ほを設置(2地域)。
- ・ 新規栽培者の確保を目指し、低コスト果樹棚を活用した低樹高(改良むかで)栽培の実証ほを設置(2地域)。
- ・ 実証ほを活用した現地検討会の開催
- ・ 生産拡大に向けて、低樹高栽培技術マニュアルを作成。
- ・ 優良品種の導入を促す県域の研修会の開催。